

(家庭数配布)



お出かけそうじをやっています！

本校では、給食の後のそうじを「お出かけそうじ」として行っています。学校の各場所に複数の学年の子どもたちが集まり、上の学年を中心として協力して行うのです。もし、そうじの時間に学校にお越しいただくことがあれば見ていただきたいのですが、どの場所でも本当に一生懸命にやっています。なお、このお出かけそうじの目的としては、以下の通りとなっております。

縦のつながりを大切にし、みんなが協力しあって働くことを通じて、好ましい人間関係を育てる。

なお、そうじの最後には各場所で、これも高学年を中心に反省会を行い、締めくくりとしています。



←最後には輪になって反省会をします。



◇校長のつぶやきコーナー（新設です。）

私が日々思うことを綴っていきます。参考にさせていただければ幸いです。第1回は“悩み”についてです。

“悩み”とは？

大人であれ子どもであれ、おそらく何らかの“悩み”ってあると思います。それが自身自身のことであったり、他の人との関係のことであったり、様々です。

私も数年前、仕事の上で本当に悩んだことがありました。当時、私は教頭でしたが、事情があつて6年生担任の他、多くの仕事を兼任しなくてはならない状況に。時には朝4時から夜中1時まで学校にいたこともあり、日々、強烈なストレスを感じておりました。ところが、ある時、ふっとこんなことを思いました。「確かにしんどい。でも、ご飯は食べられている、夜は寝れている、普通の家に住んでいる。もしかして、自分って、とても幸せなのでは？」と。世界中を見渡すと、劣悪な環境の下、満足な食事も与えられず、奴隷のように働かされている子どもたちもいる。そんな子どもたちに比べれば…。

その他にこんなことも考えられます。指先にちょっとケガをしてしまった、とても気になります。ところが、そんな人が大きな事故に遭い、全身複雑骨折のような重症を負ってしまったとします。その人にとって、おそらく指先のケガのことなどどうでもよくなるでしょう。

私が何を言いたいのか？それは「“悩み”というのは比較の問題であつて、今自分が悩んでいることは、もっと大きな悩みが生じた時には忘れてしまうこともある。」です。

ここで誤解をしないでいただきたいのは、もし子どもたちが何かで悩んでいても、私が何もするつもりはない、ということではありません。できる限りのことはさせていただきます。ただ、学校を卒業した後も、何らかの悩みがなくなることはあり得ないことから、「自分で悩みを乗り越える“力”をつけること」、そして以前、「自分を良くするのも自分、自分を悪くするのも自分」と述べたように、「他人は関係ない、要は自分自身なんだと分かってもらうこと」、もし私がやらせていただくことがあるとすれば、これしかないと思っています。

おまけ

もうひとつ、これは私独特の考え方かもしれませんが、「そんなの無理！」とよく言われることがあります。「悩みをなくしたいと思うからさらに悩んでしまう。でも、どうしてもなくせない悩みもある。それなら、なくしたいと思わなければ、それ以上に悩むことはない。」です。

保護者の皆様、やはり「そんなの無理！」でしょうか。